

# 串田新遺跡

## 整備事業概要

富山県 大門町教育委員会

昭和58年3月



# 序

大門町をはじめ射水郡は、県内でも古くから開かれた地域のひとつで、町の南方に連なる丘陵地には各時代にわたって遺跡が数多く散在している。

近年、県内でも各種の開発事業に伴なう埋蔵文化財の発掘調査が数多く行なわれ、その保存等に多大の努力がなされています。

私達の祖先が残した貴重な文化財を子孫へ継承していくことは、現代社会に生きる私たちに課せられた責務であると存じます。

串田新遺跡は大門町の中心から南へ約5kmの串田新地内の通称「大沢山」と呼ばれる独立丘陵上にあり昭和24年射水郡で初めて発掘された縄文時代の遺跡であり、県立小杉高校の地歴班、富山県考古学会湊 晨氏等が発掘及び指導に当られ、出土品については、山内清男博士（東京大学人類学教室）に検討を願った所、発見された土器は、北陸における縄文土器の編年上、縄文中期後葉のひとつの標式となるということから「串田新式」と命名された。

昭和47年に行った発掘調査では、住居址と石組炉の遺構が検出された。

昭和51年9月に国の史跡指定を受けて昭和52年に民有地約30,000m<sup>2</sup>の買収を行い、環境整備事業を行うため、丹青社（東京都）に基本計画の策定を委託した。

環境整備事業は、昭和53年度から昭和57年度までの5ヶ年間で実施した。

この史跡は歴史教育の場として、さらに地域住民の憩いの緑地として活用されることを中心とした念願いたすものであります。

終わりに、本事業をすすめるにあたり、調査から史跡指定、用地買収に協力をいただいた土地所有者の方々、保存整備事業にいたるまでに格別のご指導ご協力をいただいた、文化庁及び県文化課の方々、そのほか関係者の皆さんに心から感謝の意を表するものであります。

昭和58年3月

富山県・大門町教育委員会

## 目 次

---

I 保存の概要 .....	1
1. 位置と環境 .....	1
2. 指定と公有化 .....	1
II 整備の概要 .....	4
1. 概 要 .....	4
2. 整備の基本方針 .....	5
3. 細部設計 .....	6
4. 現 況 図 .....	8
5. 整備平面図 .....	9
6. 全体整備費(第1次計画当初) .....	11
7. 年度別整備概要 .....	12
III 図 版 .....	13

---

# 串田新遺跡・整備事業概要

## I 保存の概要

### 1. 位置と環境

串田新遺跡は、高岡市の東南に隣接する射水郡大門町串田新地内に所在し、国鉄越中大門駅より南へ約く 5.0 km の地点にあり、通称「大沢山」と呼ばれ、芹谷野丘陵の東北端に位置する独立丘陵で標高 45 m ~ 46 m、東西 150 m、南北 450 m の細長い地形である。

西には庄川によってつくられた沖積平野（射水平野）がひろがり遠く高岡市街及び二上山を望むことができる。

本遺跡の東北端には、仲哀天皇（第14代）の代に、武内宿祢が遣わされて創建されたと伝えられる櫛田神社がある。

串田新遺跡の周辺の丘陵や平野部には、各時代にわたる数多くの遺跡が存在する。本遺跡をめぐる射水丘陵とその平野部は、ひとつの景観的まとまりを示しており、越中の原始古代史のなかでも特異な位置を占めている。

大門町内に本遺跡の外に、下記の遺跡がある。

#### 1. 大門町島鉢田遺跡

耕地整理の際に偶然、古式土師器等が発見された遺跡で、沖積地（庄川右岸の自然堤防）の微高地上に立地する古墳時代初期の集落址と思われる。

#### 2. 大門町市ノ井遺跡

和田川右岸の河岸段丘上に立地する遺跡で圃場整備の際に弥生時代後期の土器が発見された。

#### 3. 生源寺新遺跡

和田川の河岸段丘上に形成された遺跡で、南郷中学校建設中、偶然に縄文時代の遺物が発見された。出土した土器の様相から中葉のものが中心をなすと考えられる。

#### 4. 小泉遺跡

庄川の新扇状地上に立地する縄文時代遺跡とい特異な遺跡として注目を浴びた。

この遺跡は県道高岡婦中線の改良工事に先きだって調査された遺跡である。

他に、生源寺遺跡、大塚古墳、等がある。

### 2. 指定と公有化

発見と調査の経緯

串田新遺跡は、昭和24年4月、県立小杉高校の地歴班が、近くの

櫛田小学校に陳列されている土器片を見たことが遺跡発見の端緒となった。この後同校地歴班によって丘陵全般にわたる発掘調査が行なわれ、土器、石器などのおびただしい出土品を得て遺跡の一端が明らかにされた。翌25年、山内清男博士（東京大学人類学教室）によってこれらの出土品が検討された結果、発見された土器は、北陸における縄文土器の編年上、縄文中期後葉のひとつの標式となるということから「串田新式」と命名された。昭和24年の県立小杉高校の調査で得られた出土遺物は、遺跡のどの層位から出たものであるか、はつきりしていないが、全体的には丘陵の中央部よりも南寄りの部分に厚く散布しており、西側傾斜面付近から最も多く出土したもののが多かった。地表面から採集、発掘された土器は相当の量にのぼるが、完全な形のものは僅かであった。また全体的には典型的な深鉢が多く、底はほとんどが平底で、半数以上が網代底であった。これは、この時期に作られた土器の特色を示すものとされている。この調査では、石器も多数採集された。その中には打製石斧、石錘、石鎌、石匙、磨石、敲石、石皿、凹石、石劍、砥石、などがあり、これは当時の人々の技術水準や生業形態を知る上で大きな手がかりとなるものである。

昭和46年、大門町教育委員会が、富山県考古学会の湊 晨等の協力を得て調査を行なった。さらに、翌47年には県教育委員会によって調査が行なわれ、縄文中期後葉に属する住居址一棟と石組炉址6基の遺構が検出された。さらに丘陵の東南部には相当数の住居址があるものと推定され、台地上に縄文時代中期後葉の集落が展開していたことが明らかにされた。また、それまでの所属時期及び性格については不明であった丘陵北東部に所在する「古墳」についても調査が行なわれた。調査が行われたのは、最も大きな墳丘をもつ第一号墳と二号墳であるが、両者とも古式土師器が検出され古墳時代初期に属するものであることが判明した。



第1図 串田新遺跡と周辺の主な遺跡

- |                       |                                   |
|-----------------------|-----------------------------------|
| 1. 串田新遺跡（先土器、縄文、古墳初期） | 8. 島鉾田遺跡（古墳初期）                    |
| 2. 生源寺新遺跡（先土器、縄文）     | 9. 流通業務団地遺跡群（縄文、古墳、奈良）            |
| 3. 生源寺新B遺跡（縄文、須恵）     | 10. 五歩一古墳群 11. 宿屋古墳               |
| 4. 大塚古墳               | 12. 上野遺跡（先土器、縄文、古墳初期、古墳、奈良～平安、近世） |
| 5. 生源寺遺跡（奈良、近世）       |                                   |
| 6. 市ノ井遺跡（弥生）          |                                   |
| 7. 小泉遺跡（縄文、中世）        | 13. 日ノ宮古墳群                        |

## Ⅱ 整備の概要

### 1. 概要 史跡の環境

本史跡は、富山湾に注ぐ庄川に近く沖積平野に独立する丘陵である。庄川右岸の山間地帯と平野部との境界に走っている丘陵地一帯には埋蔵文化財、史跡などが多く、南西の方には、弓の清水（史跡）増山（縄文）増山城跡（史跡）宮森新（縄文）巖照寺（縄文中期）池ノ原（先土器・縄文）芹谷（縄文中期）正権寺（縄文）三合（縄文）などを経て庄川に至り、東北に向っては、大塚（古墳）生源寺新（縄文）生源寺窯跡（史跡）宿屋（縄文）上野（先土器・縄文・弥生・古墳）水上谷（縄文）日の宮（須恵・土師）囲山（須恵・土師）大閣（縄文中期）中山（先土器・縄文前期・須恵・土師）大開（縄文中期・須恵・土師）などを経て呉羽山丘陵地帯に連なっている。

本史跡は、概ねこれら遺跡の中間に位置している。大門町の中心街からは南に5km程の距離にある。付近は開けた田園が取り巻き、東側に和田川が北上して流れている。

#### 史跡について

史跡は北側に延喜式内社櫛田神社があって大樹が茂っており、この丘陵地周囲も竹林その他に被われていて環境が良い。

この丘陵地は平野からは、10~16m程高いため、眺望にも恵まれている。

上記の比較的平坦な場所は現在畠地が大部分を占め一部は果樹園として、梨が栽培されている。その他墓地が2ヶ所含まれている。

史跡は全面積で約6.7haあり、第1次計画地・第2次計画地・第3次計画地の3区分から構成されている。

第1次整備地（3.0ha）は面積の約半分を占め、中央部から南西の最も高い平坦地と周囲の傾斜地からなっている。住居跡や石組炉の遺構は本地区の南側にあり、更にこの地点より北200m程の所には円墳3基が在る。

第2次計画地（1.6ha）は第3次計画地の西側から櫛田神社にかけての最も低い地区で、西側は樹木をなしている。

隣地ではあるが神社から東側にかけては樹林帯に接している。そして畠地が多い。

第3次計画地（1.6ha）は中央部から北東部にかけての地区で傾斜面を多く含んでいる。中央部に近い場所は土取りのため、大きく掘さくされ、地肌が表出している。この地区の既存樹木は少ない。

## 2. 整備の基本方針

全 体 整備地は大沢山と呼ばれている独立丘陵地で、耕作地を透して眺められる。丘陵の傾斜面は大部分が樹林で被われているのと神社の森によって、緑の丘として感じられる。従って外観上からは、これらの緑を出来るだけ保存し、部分的に欠けた場所には高木を補植し外観を整えた。

一方丘陵地としての条件からは高台であることを利用して、外部の景観を眺望することは得策である。外部からの緑に被われた閉鎖性と内部からの開放的な眺望とは相反することになるが内部からは全てが開放的である必要はない。眺望を別にすれば、むしろ緑に囲まれた空間とした。

現況では、樹木のない部分もあることから、これらの場所を眺望のスペースに当てた。

地形は、原則として変えずに現状を維持する。但し、中央付近の土取り跡は元の状態に近く戻す。全体は現在、農地として使われている。比較的平坦な部分とそれを取り囲む傾斜地・山林が当計画に於ても、そのままゾーニングに当てはまる。即ち前者は利用上積極的に活用する地帯となり、後者は景観上の保存地帯である。

動 線 動線計画としては北方の大門町市街から来る場合が多いことは、当然予想されること、更に櫛田神社との関係からも境内に沿った既存の道路を拡張して当地へのアプローチとするのが良く、従って駐車場は神社に近い位置に設ける。計画地は長手方向でも 600mに満たない距離であるから内部には車を乗り入れることはさせず歩行のみに制限した。

地形は北西から南東にかけての細長い形状であるため動線も必然的に地形の方向形に従がうことになる。この方向にデザイン上の主軸線を設けた。

当地への外部からの取付道路は現在使われている南側の道路と東側からの大小 2 本の道路を生した。

西側には敷地境界に沿ってこの道路から細い園路を 3 カ所設けた。

第 1 次整備地区 この地区は住居跡・石組炉及び 3 基の古墳を含むことから、これらの保存並びに活用が第一である。更に全地区に於ても最も広い平坦部を含むので、この活用は遺構に次ぐ重要な問題である。

住居跡・石組炉と 3 基の古墳とは各々まとまっていること、その間には遺跡が発見されていないことから、この地区を更に大別する

と3ヶ所になる。

南からの農道の取付く場所から住居跡などのあるスペースにかけてを縄文広場とし、一部は集会離散などのための舗装部分を設け、3基の古墳を結ぶスペースを古墳広場とした。

第1次と第2次との境界線がここを通るが一体として計画する。

両広場の間のスペースは開放的な芝生広場を設け、古墳広場から芝生広場に移行する付近には現存する梨園を生かす。眺望の良好な東西2ヶ所に休憩所と、四阿（あずまや）を設けた。

西側の樹木の少ない斜面には外部からの景観を考慮して花を鑑賞出来る灌木を群植し園路を回遊させて、内部からも楽しめるよう配慮した。

### 3. 細部設計

**敷地整備** 地形を変更しない原則により第2次地区の土取跡以外は、ほぼ現状にて十分である。

土取跡地はメインアプローチが設けられたことから、この形状に合せて盛土する。舗装や芝生地となる部分の雑草や灌木の根は取り除き、竹林を含む樹林地は、灌木下草などを刈取り整備した。

**古墳保存** 第1次計画地区の3基の古墳の内、第1・第3号古墳は現状を整備し、マウンドに野芝を張り、第2号古墳は直径30m高さ2～3mの高さに盛土して野芝を張り形を整えた。

第2次計画地区の古墳に関しても2号墳と同様である。

**住居跡・住居復元** 住居跡・石組炉群のある場所は平均50cm程の客土により、遺溝を保存し、住居跡の1ヶ所は復元し整備した。他は布石によって表示した。

**広場園路施設** 縄文広場は割石をもって縁石し、周囲を形取り、砂質赤土を石灰安定処理をし舗装した。古墳広場は、第1号墳と第2号墳の間に設け碎石舗装とした。各広場の周辺には飛石とベンチを配し、散歩、休憩ができるよう配慮した。

園路は、赤土舗装と砂利舗装をし車の進入は禁じ人のみとした。

**休養施設** 休憩所は高台の西側で樹木の少ない眺望良好な地点に設置した。

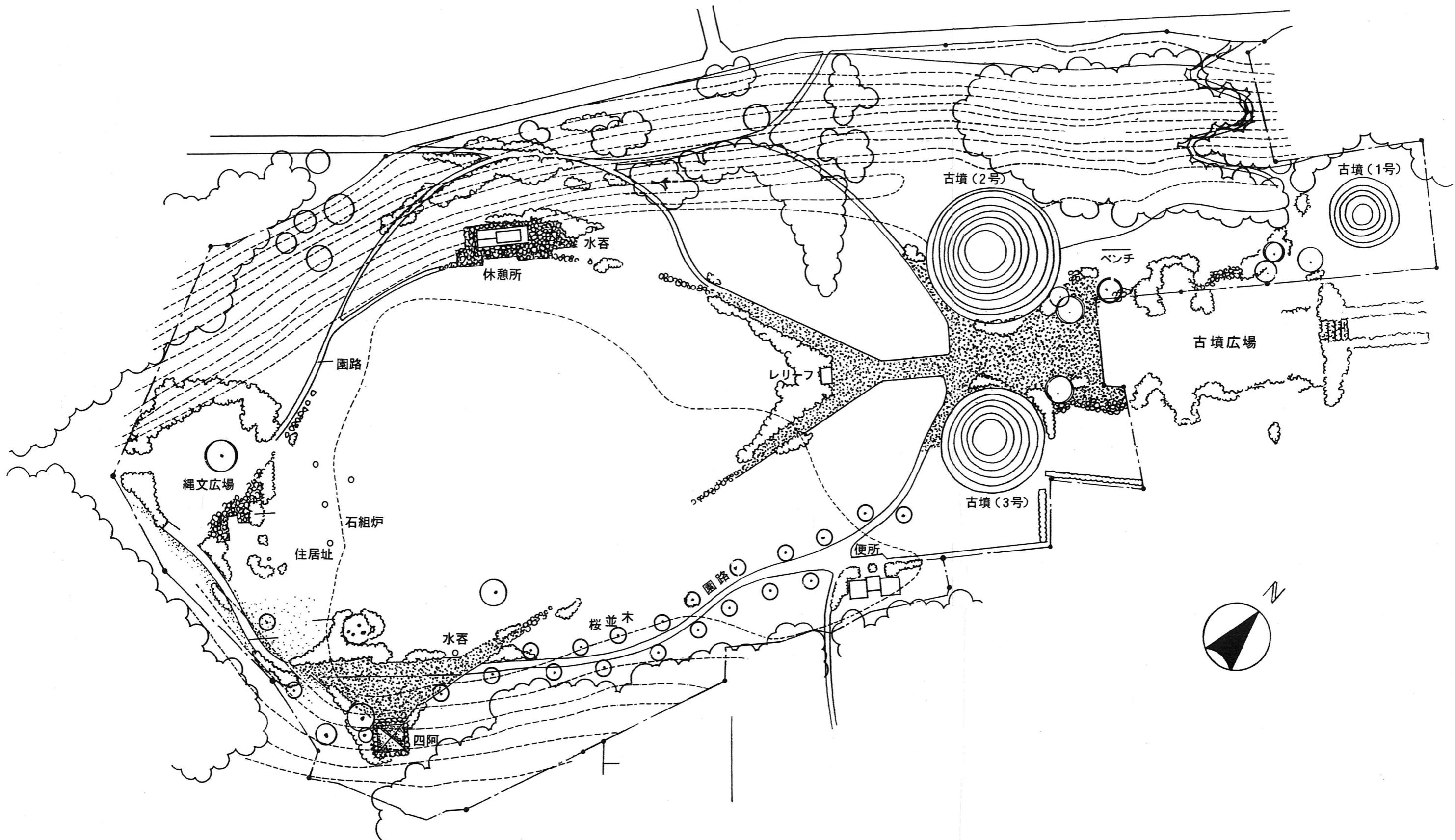
降雨、日照を避けるための屋根を架け、一部屋上から内外を展望出来るようにした。四阿は休憩所と反対側に設け、東側の眺望が楽しめるようにした。また、竹林のために視界が狭まないので、一部伐採した。

ベンチを園路沿いや広場などに適宜配置した。

- 便益施設** 便所は古墳広場に近い所に設け、水洗式にする。その他に資料館内にも便所が含まれる。
- 水呑場は園内4ヶ所に設け、手洗い、その他の利用に供した。
- 管理施設** 案内板・説明板・標柱・標識・方向指示板などを随所に取付けた。また本遺跡の縄文時代の生活を再現した復元景観図を銅板レリーフで設置して理解しやすいようにした。
- モニュメント** 当史跡を代表するモニュメントを古墳広場の南側芝生広場の一端に建てる。形態は串田新式土器を形取り水呑、腰掛を設置した。
- 植栽** 既存樹木は出来るだけ現状を保存するが眺望に支障を来たした所だけ最小限に伐採した。
- 古墳広場や縄文広場に落葉高木を新植することによって夏の緑陰を造り、修景効果を高める。四阿寄りの芝生地にシンボリックな花木高木を植えた。
- 第1次地区では中央を広くしてスポーツなどにも利用出来るようになり、灌木は周辺の各施設近くに群植した。
- 縄文広場付近には古代の生活に関する灌木などを特に配置した。
- 古墳広場には砂利舗装部分と両側の緑地とが柔かく融合するよう配植して、休憩所側の斜面に花灌木を群植した。
- 芝生は日本芝による緑化を行ない、古墳・住居跡付近・メインアプローチ両側の生垣内には日本芝を張った。



遺跡整備平面図



## 串田新遺跡環境整備費（第1次計画）

		数 量	単 価	
1.	敷 地 造 成 (除草・整地・下刈)	$35,000 \text{m}^2$	300	10,500,000
2.	古 墳 復 元 (3基)	$1,600 \text{m}^3$	2,000	3,200,000
3.	客 土 植栽部分ア・ $0.1 \text{m}$ 住居跡付近ア・ $0.5 \text{m}$	$3,700 \text{m}^3$	1,500	5,550,000
4.	舗 装 広 場 (砂利敷)	$2,200 \text{m}^3$	2,200	4,840,000
5.	園 路 (砂利敷)	$2,100 \text{m}^3$	2,200	4,620,000
6.	高 木 新 植	20本	30,000	600,000
7.	高 木 移 植	100本	10,000	1,000,000
8.	灌 木 植 栽	$2,300 \text{m}^2$	5,000	11,500,000
9.	芝 生 植 栽 (張芝)	$4,700 \text{m}^2$	500	2,350,000
10.	" (洋芝)	$17,500 \text{m}^2$	150	2,630,000
11.	休憩所・四阿	2棟	3,000,000	6,000,000
12.	便 所	1棟		4,000,000
13.	水 吞	2ヶ所	200,000	400,000
14.	ベ ン チ	20基	50,000	1,000,000
15.	案 内 板 ・ 他	1式		3,400,000
16.	住 居 跡 整 備	1式		1,000,000
17.	モニュメント	1式		3,000,000
18.	クズ入れ・他	1式		300,000
19.	雜 工 事	1式		600,000
	(小 計)			66,490,000
20.	経 費 (約30%)	1式		19,000,000
	(合 計)			85,490,000

(注) 測量費及実施計画作成費、事務費等は含まず(以下同じ)

## 整備工事の概要

		昭和53年度	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度
着手年月日	S.54.2.13	S.54.10.1	S.55.8.1	S.56.9.1	S.58.2.7	
完成年月日	S.54.3.27	S.55.3.20	S.56.3.31	S.57.3.31	S.58.3.30	
事業費	本工事費 設計費 事務費 計	3,900円 1,005〃 95〃 5,000〃	17,900円 2,000〃 100〃 20,000〃	26,700円 2,600〃 700〃 30,000〃	30,900円 3,000〃 1,100〃 35,000〃	19,250円 1,500〃 750〃 21,500〃
財源内訳	国庫補助金 県費補助金 一般財源 計	2,500〃 1,250〃 1,250〃 5,000〃	10,000〃 5,000〃 5,000〃 20,000〃	15,000〃 7,500〃 7,500〃 30,000〃	17,500〃 8,750〃 8,750〃 35,000〃	10,750〃 5,375〃 5,375〃 21,500〃
事業内容		整地工 23,500m <sup>2</sup> 盛土工 1,000m <sup>2</sup>  敷 石 11.5m <sup>2</sup> 飛 石 305ヶ  給水工 1.0式  四阿工 1.0棟  張 芝 4,772m <sup>2</sup>  排水溝 211.4m	盛土工 5,131m <sup>2</sup>  園路鋪装工 1,0620m <sup>2</sup>  石組炉 2.0ヶ所  住居址 1.0ヶ所  飛石工 178ヶ  説明板 3ヶ  給水工 1.0式  便 所 1.0棟  植 栽 61本  張 芝 7,895m <sup>2</sup>	盛土工 7,114m <sup>2</sup>  園路広場 1,200m <sup>2</sup>  階段工 8ヶ所  排水溝 240m  バーコラ 1.0棟  景観レリーフ 1.0基  炉跡 1.0ヶ所  飛 石 230ヶ  案内板 1.0基  ベンチ 12ヶ  腰掛 4ヶ  張 芝 5,070m <sup>2</sup>  植 栽 1,231本	排水溝 118.5m  給水工 1.0式  車 止 1.0式  名称柱 1.0基  張 芝 4,767m <sup>2</sup>  植 栽 2,800本	



豎穴住居址(古墳時代初期)全景



溝状遺構



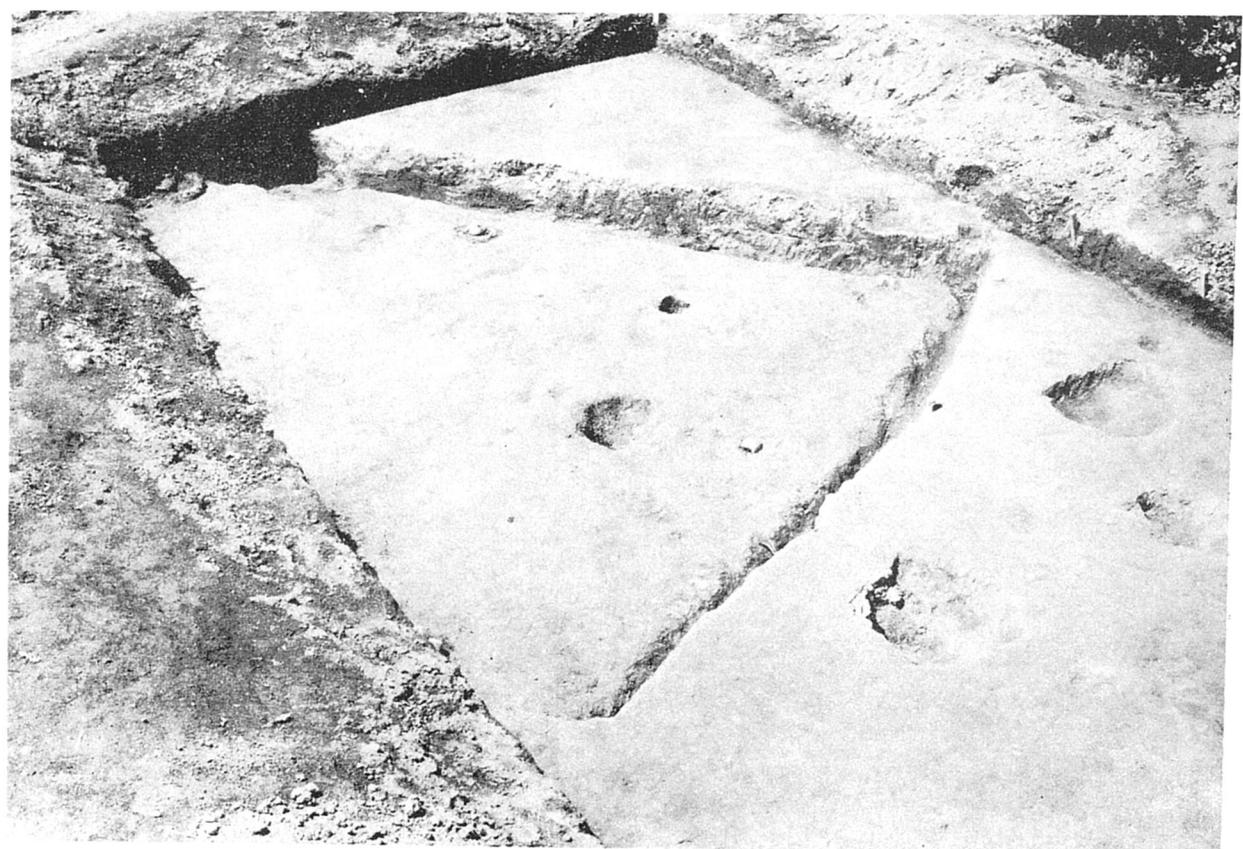
性格不明の土拵



土器出土状況(住居址周溝内)



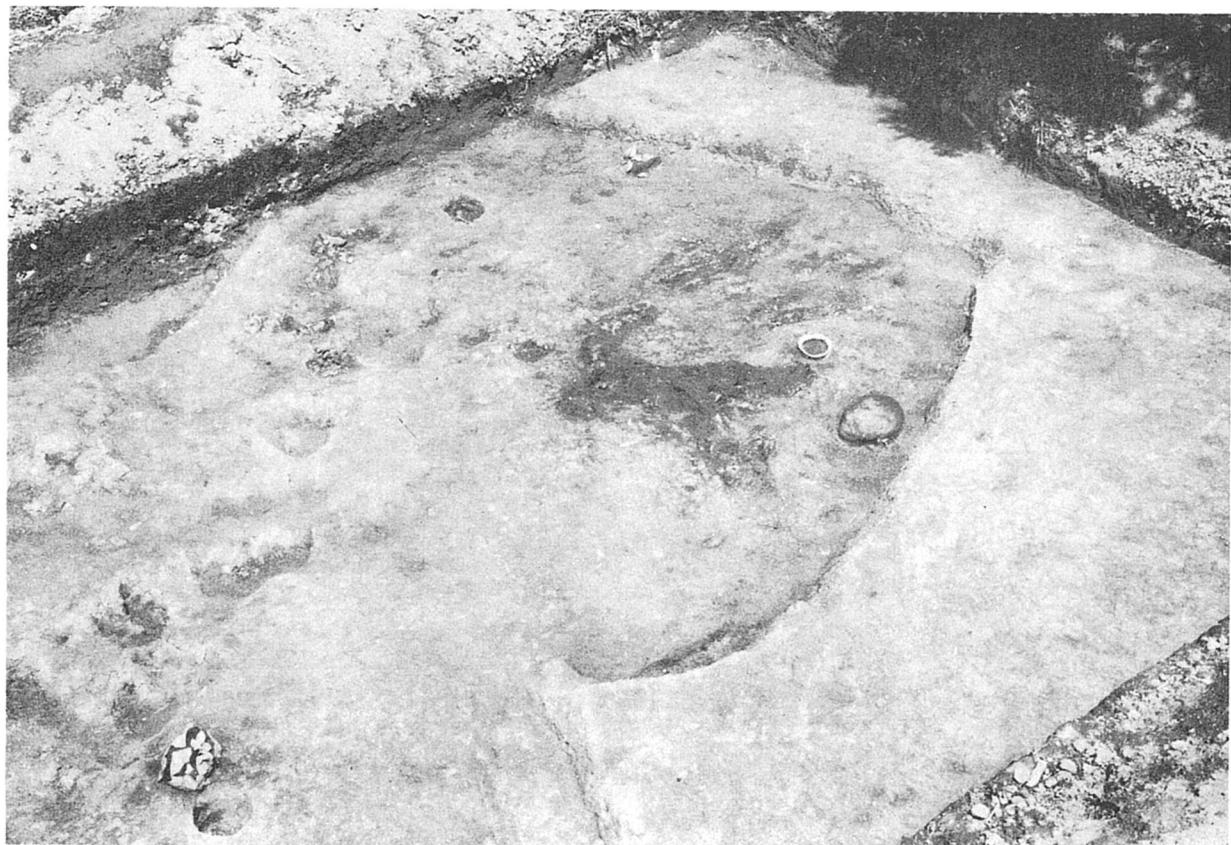
第2·3·4号住居址



第2号住居址



第 3 号 住 居 址



第 4 号 住 居 址



第 1 号住居址



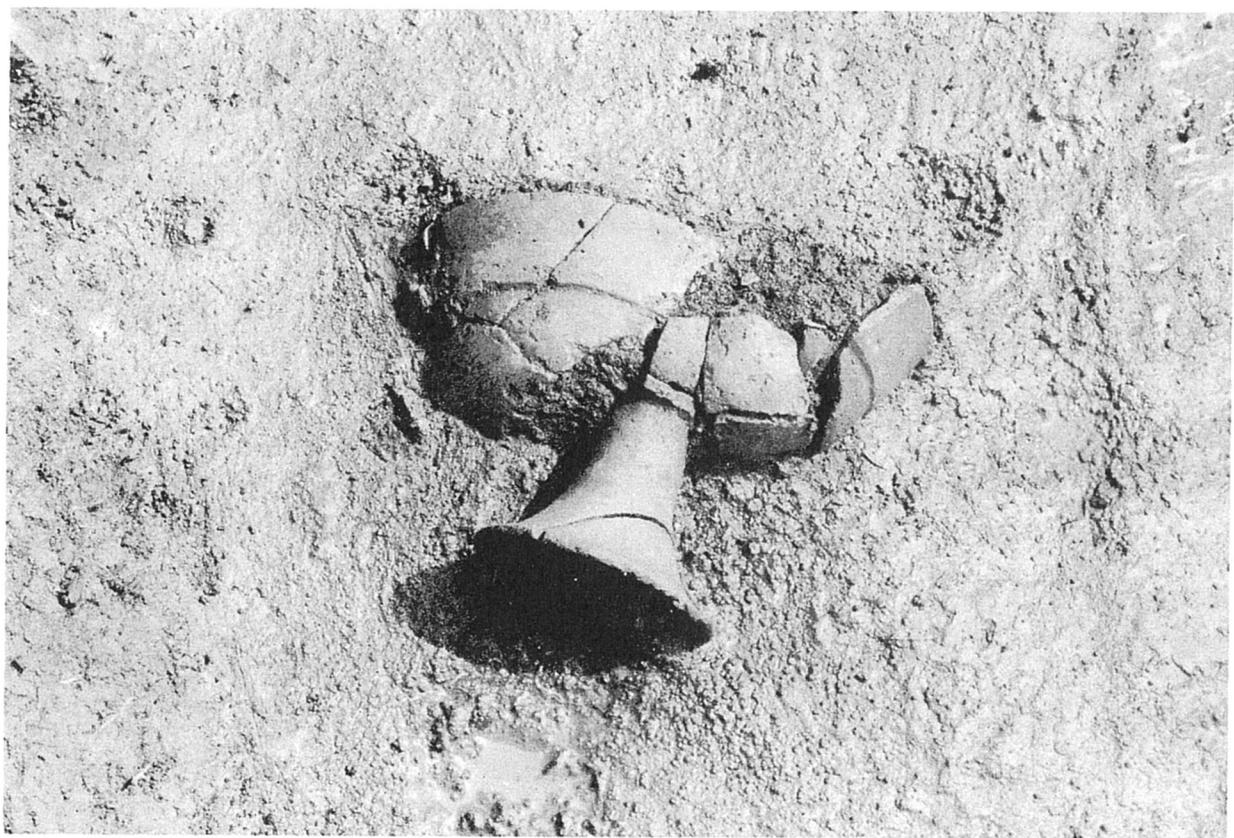
土器出土状況(第 1 号住居址)



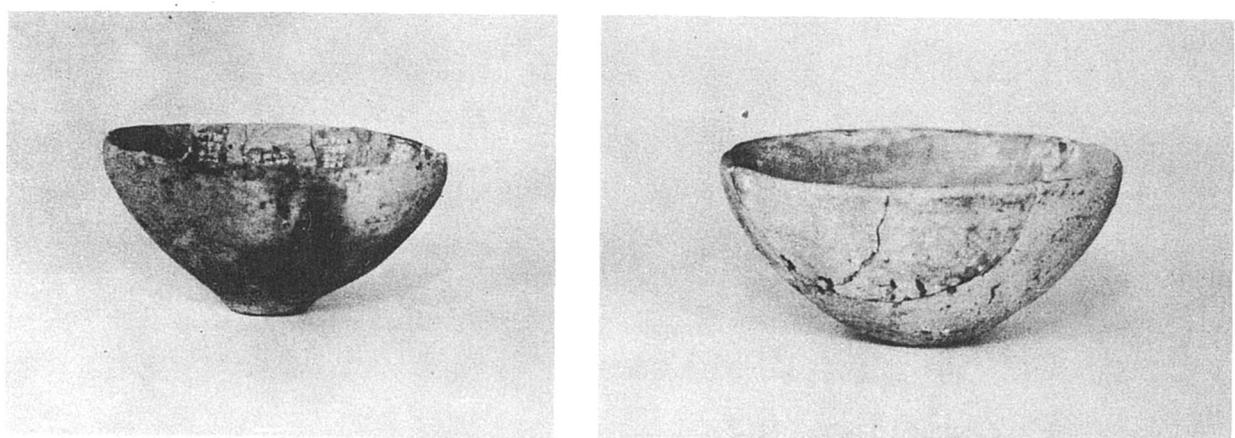
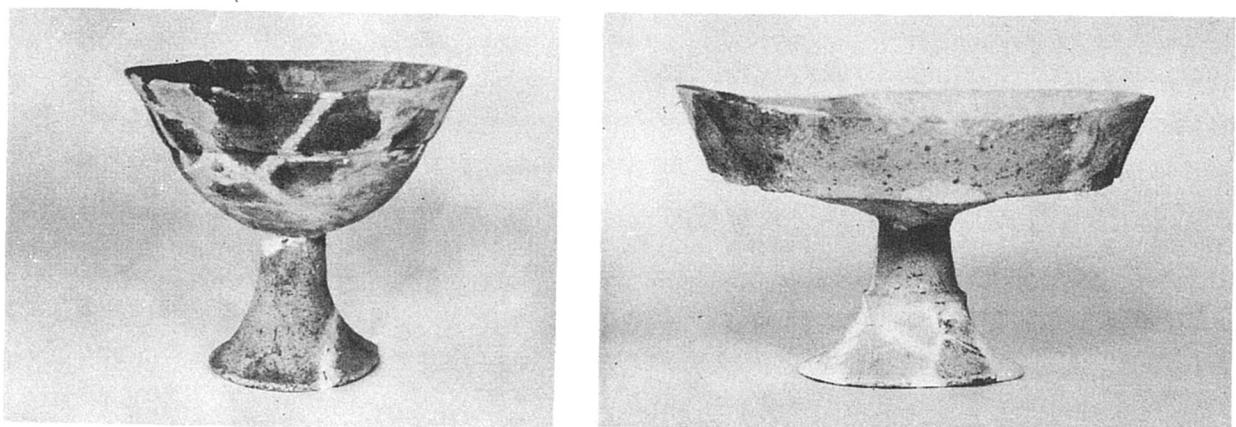
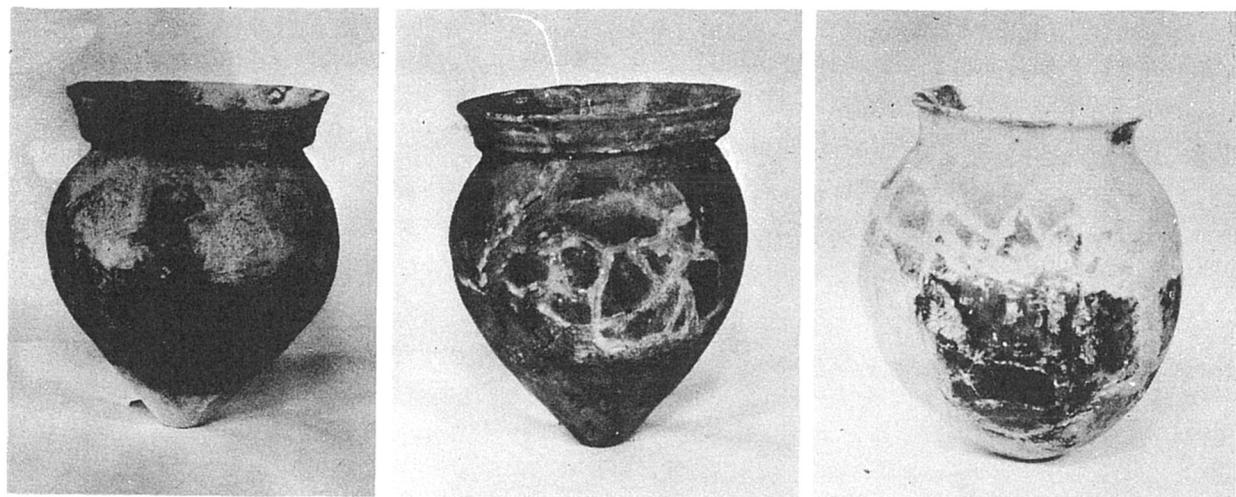
土器出土状况（第 2 号住居址）



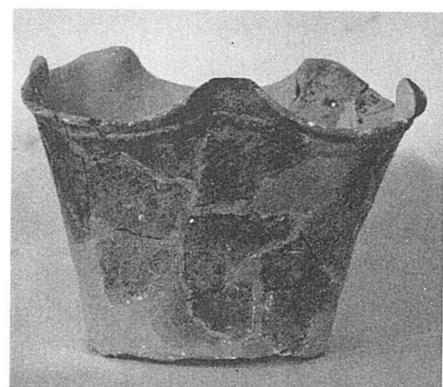
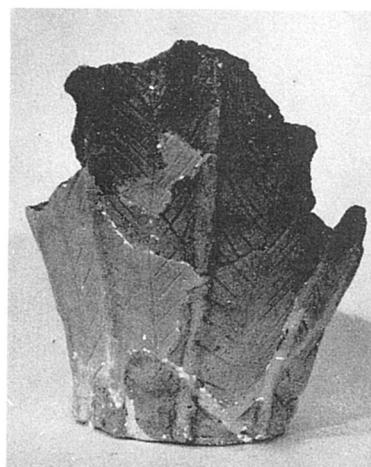
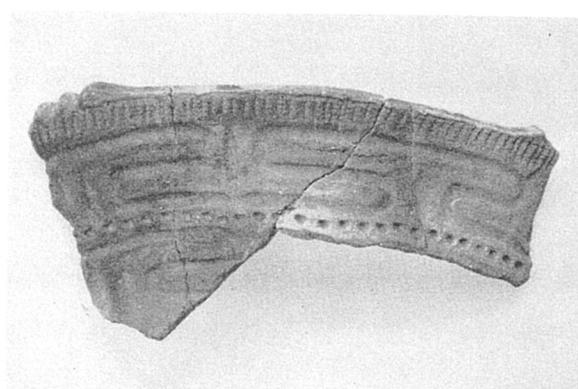
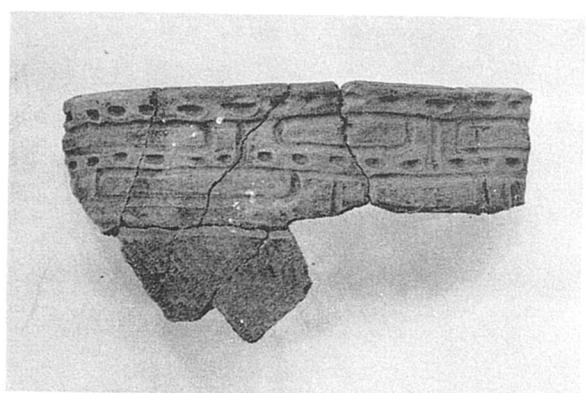
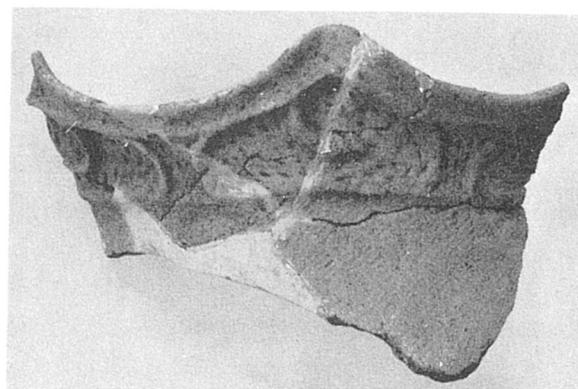
土器出土状况（第 3 号住居址）



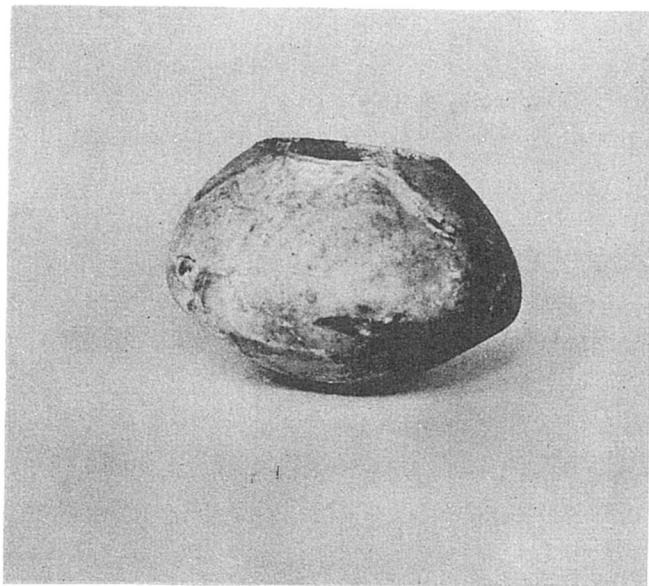
土器出土状况（第4号住居址）



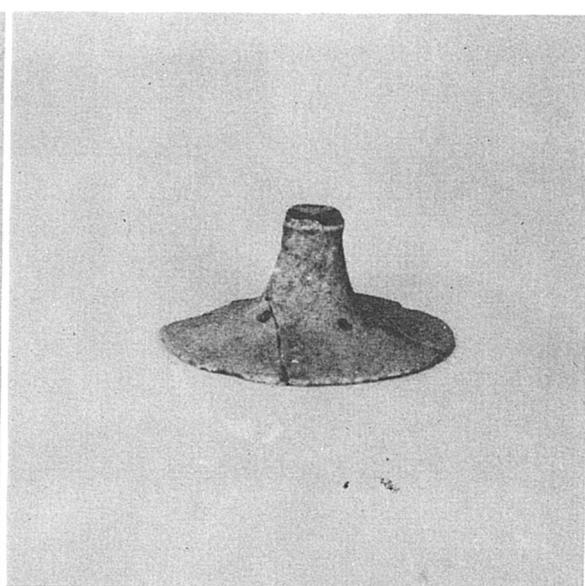
上段・甕形土器（右.第1号住居址.中.左.第3号住居址）  
中段・高坏（右.第1号住居址.左.第4号住居址）  
下段・鉢形土器（第2号住居址）



縄文中期後葉、中期末葉～後期初頭の土器



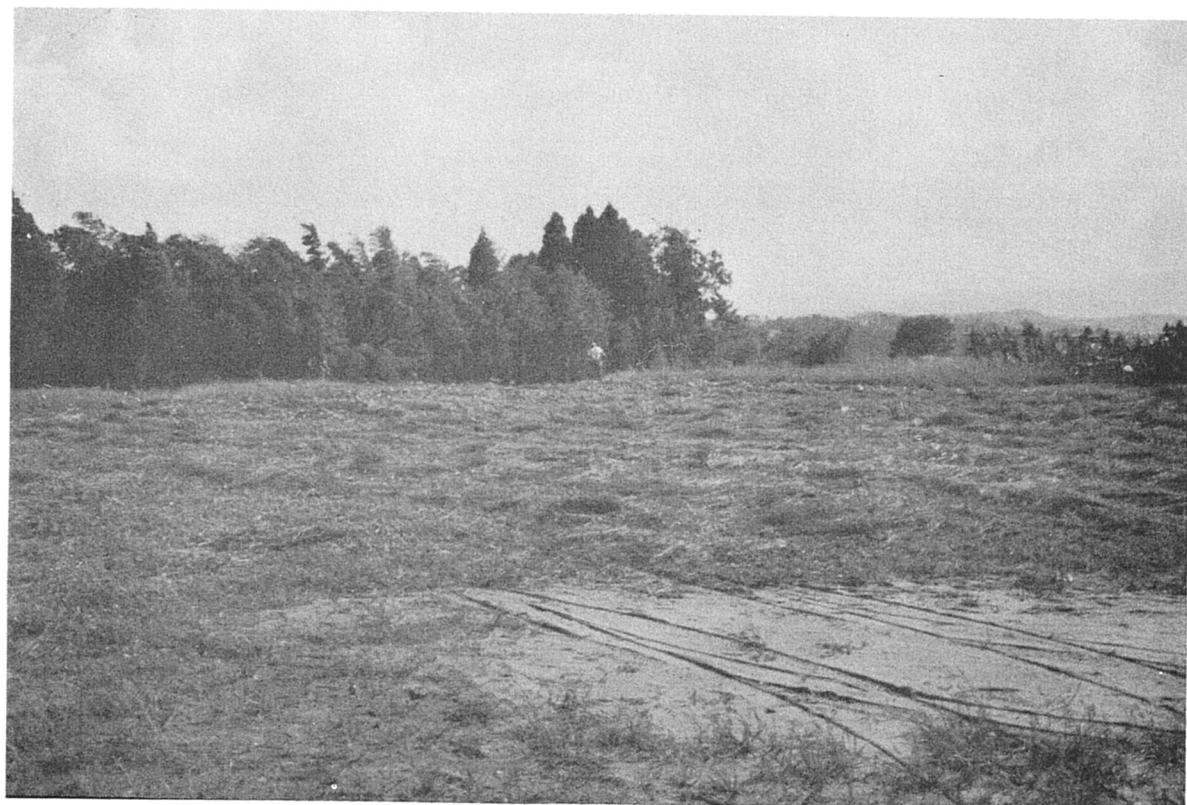
鉢形土器(第6区)



高坏脚部(住居址周溝)



着工前



着工前

盛土状況



芝張



砂利道



園路階段



園路階段



休憩所基礎



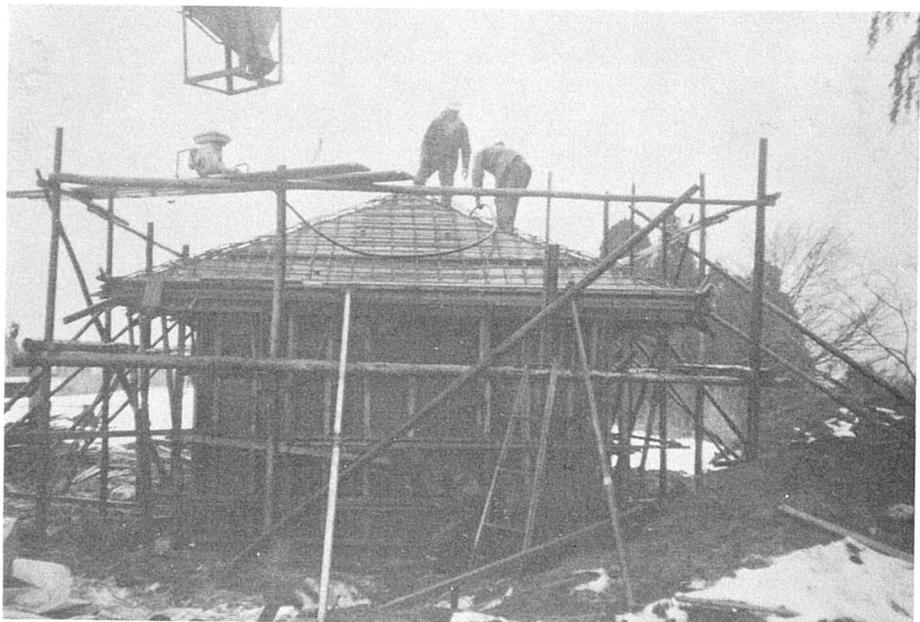
休憩所



休憩所



便 所



園 路



園 路



排水溝



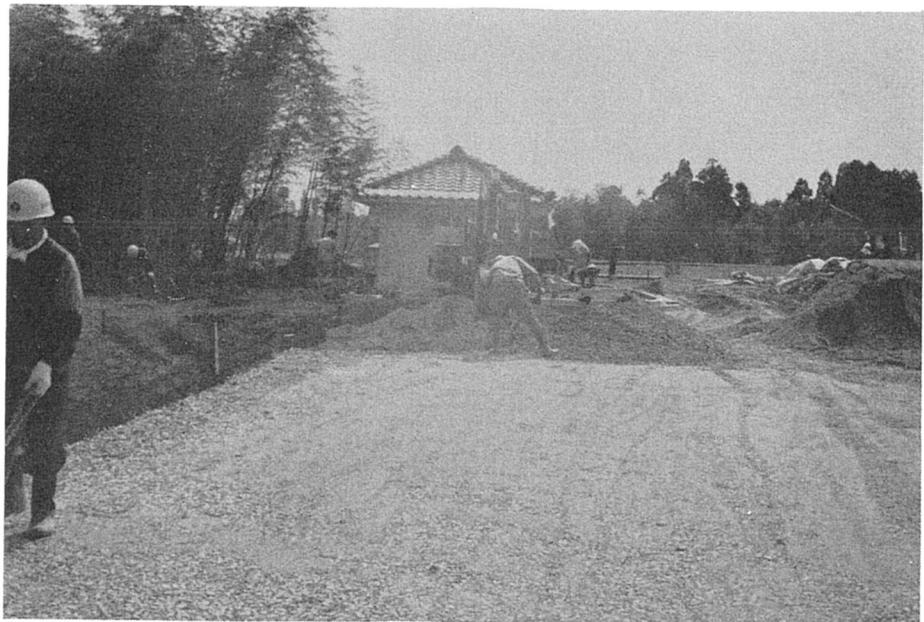
排水工



レリーフ



園 路



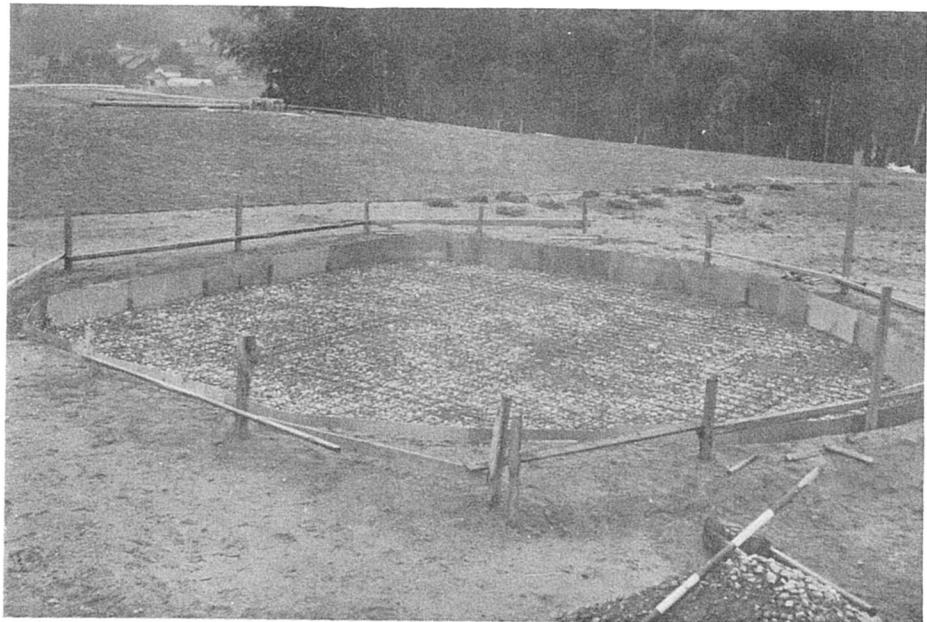
園 路



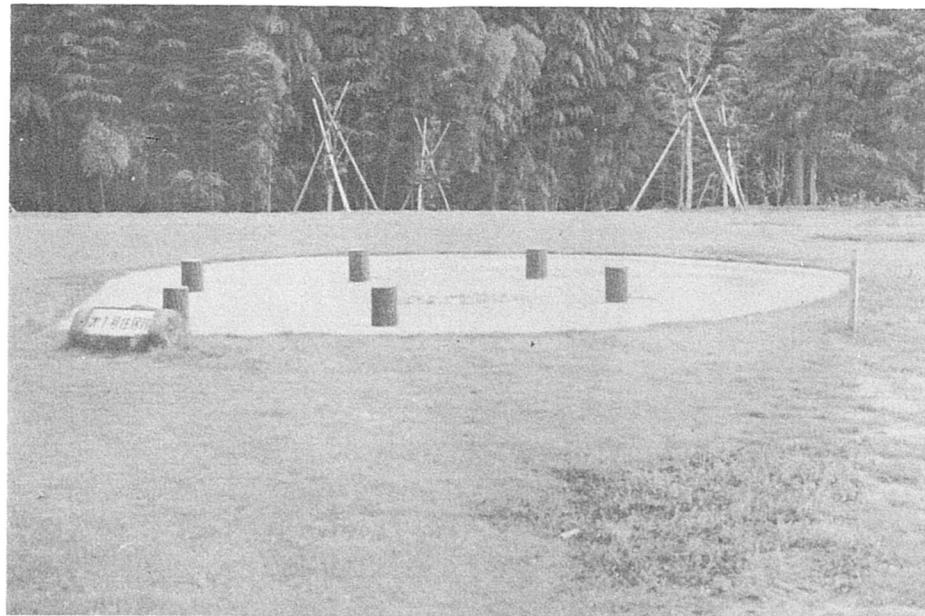
敷 石



住居址基礎



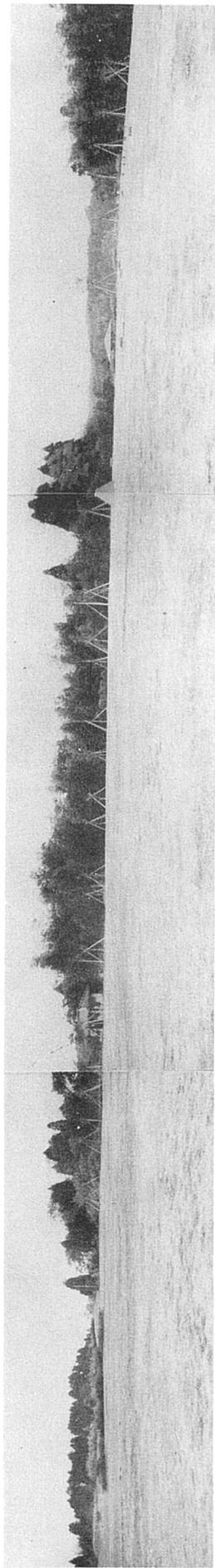
住居址



低木植栽

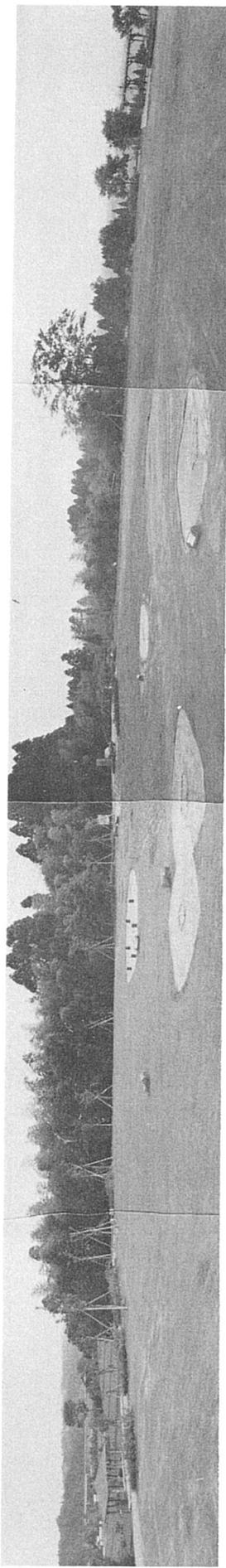


史跡全景



東

側



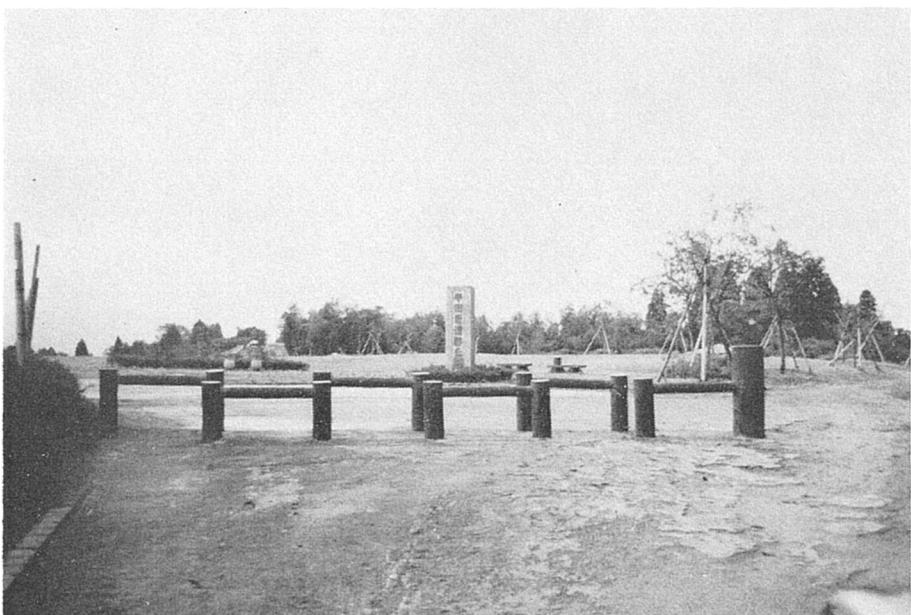
南

側

標 柱



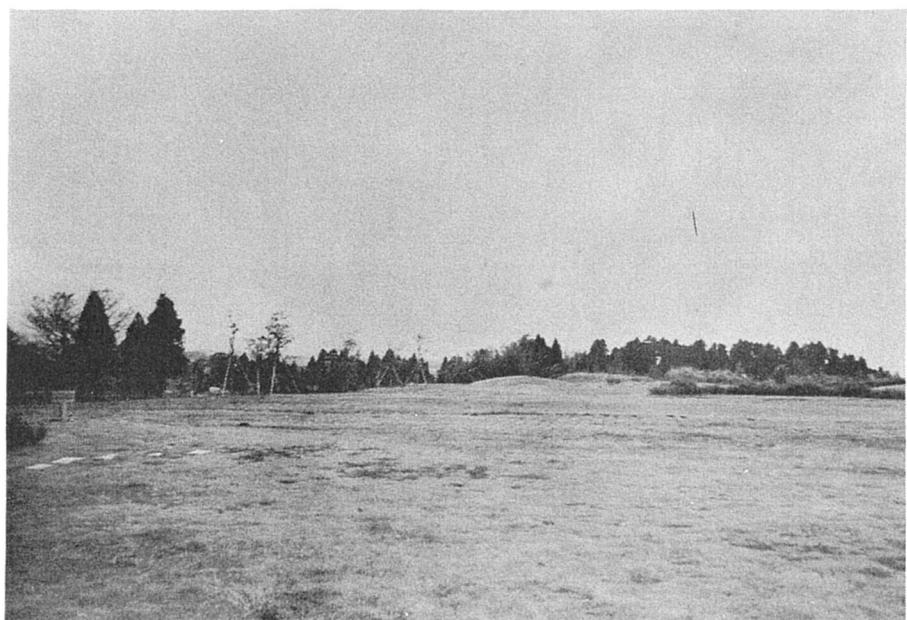
車 止



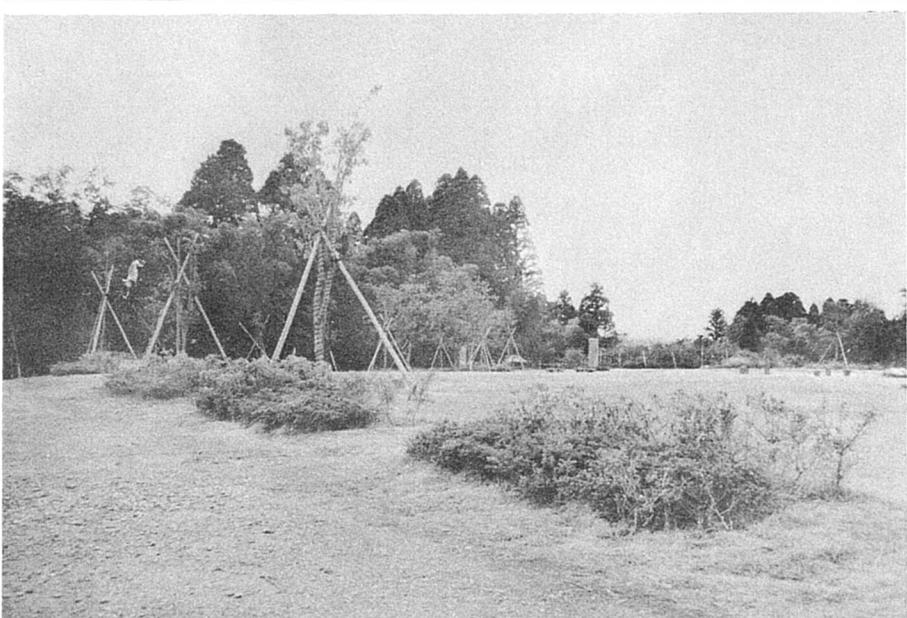
案 内 板



墳丘遠景



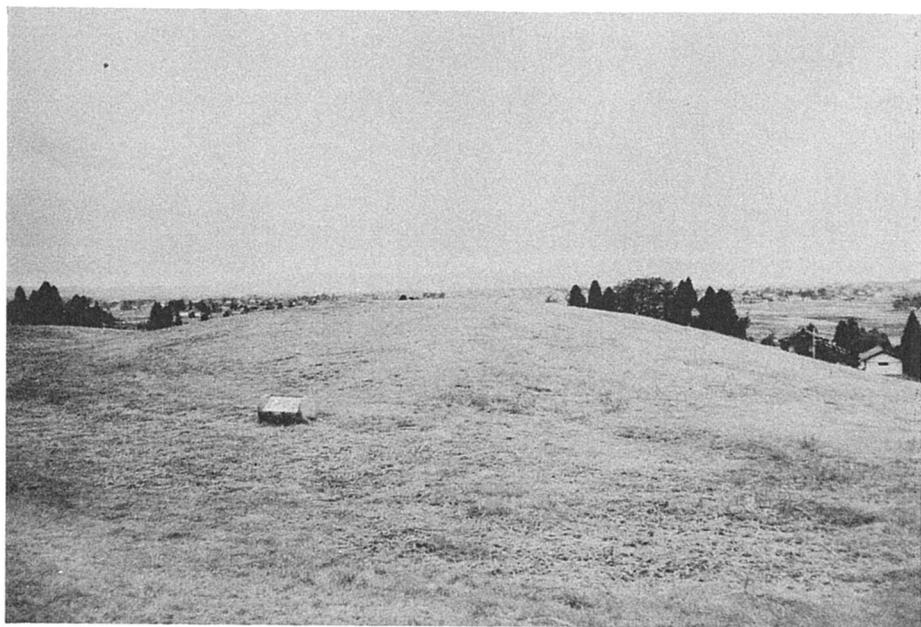
植 裁



園 路



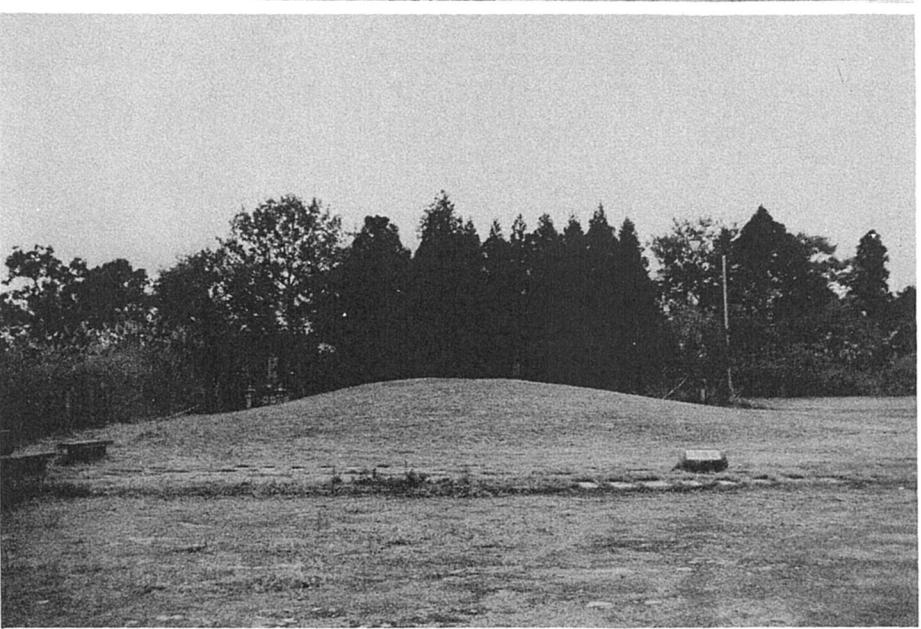
1 号 墳



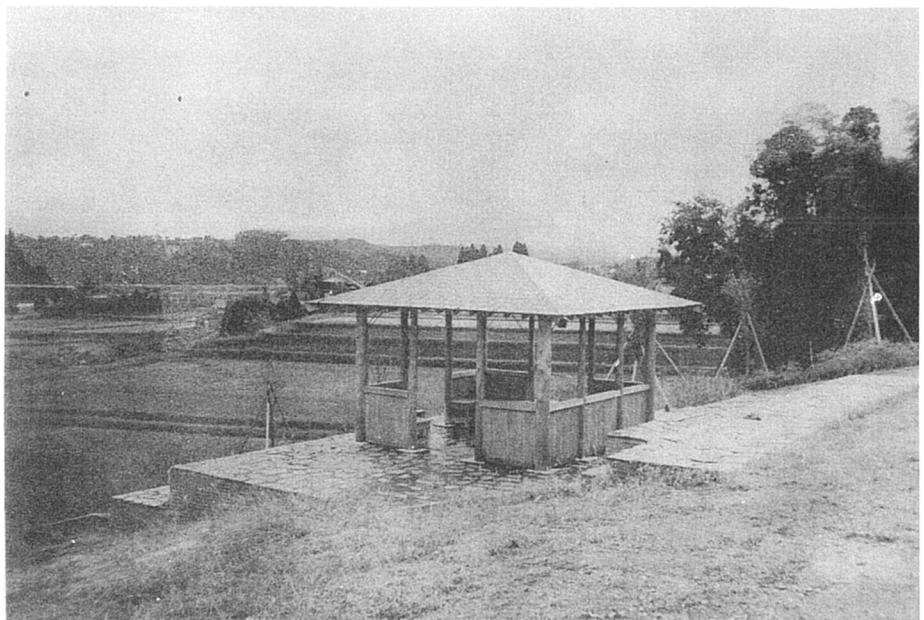
2 号 墳



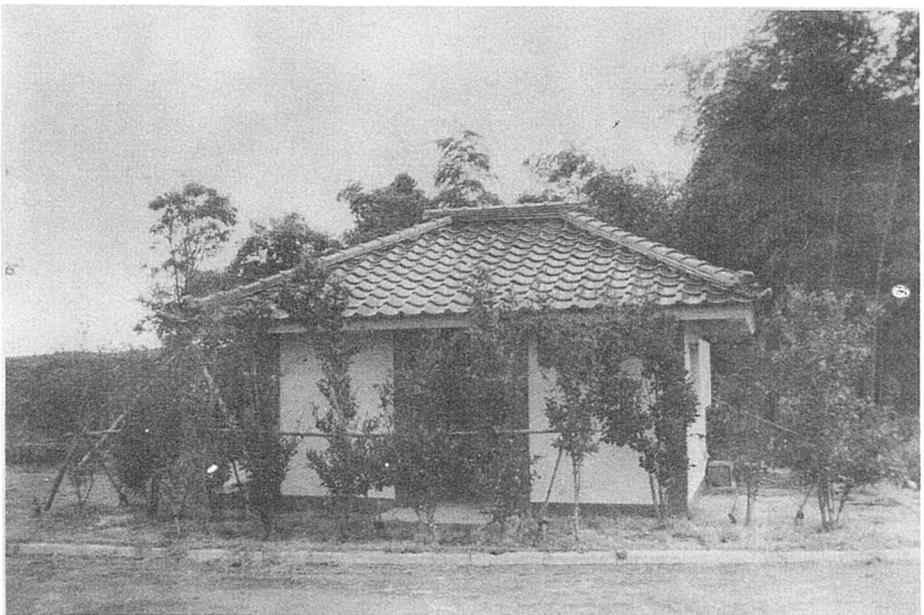
3 号 墓



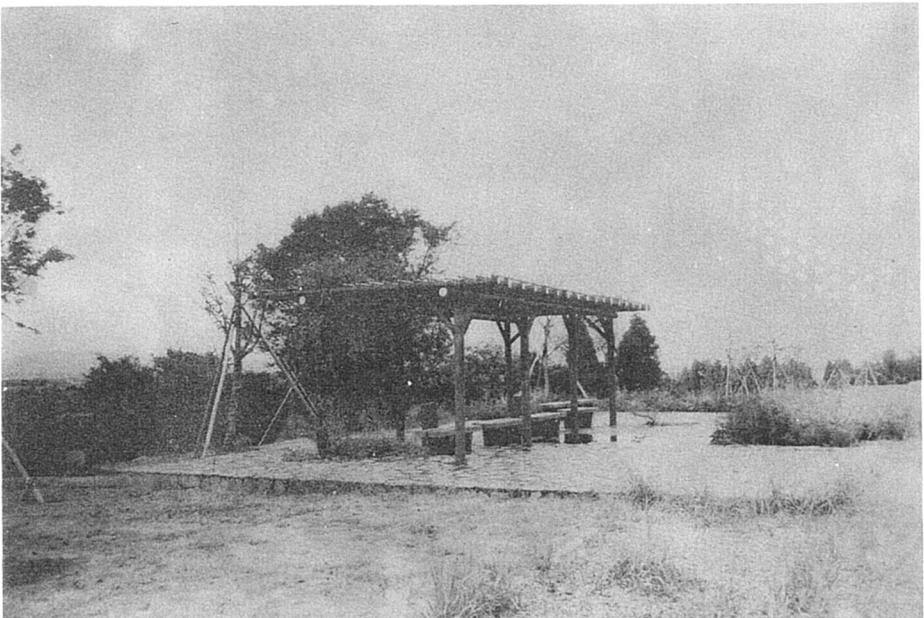
四 阿



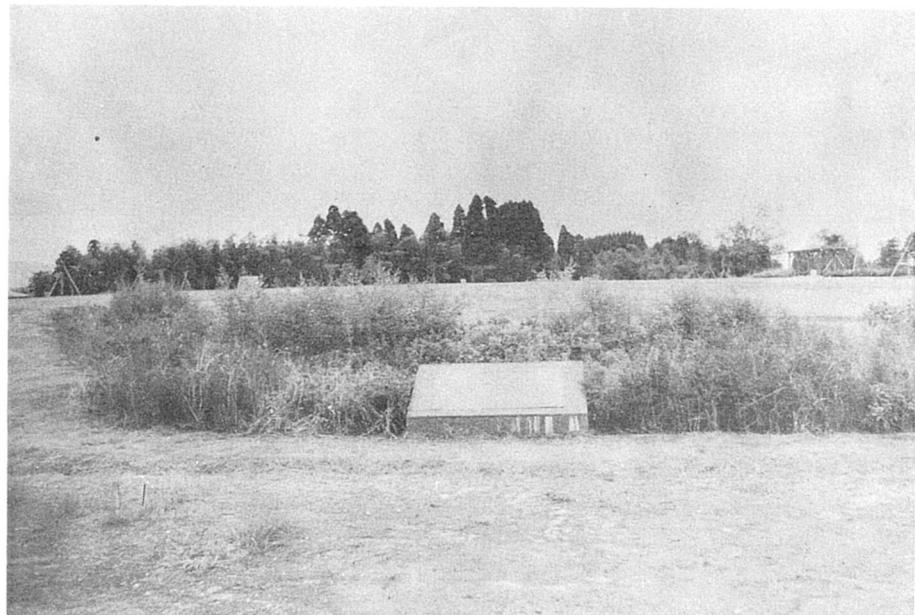
便 所



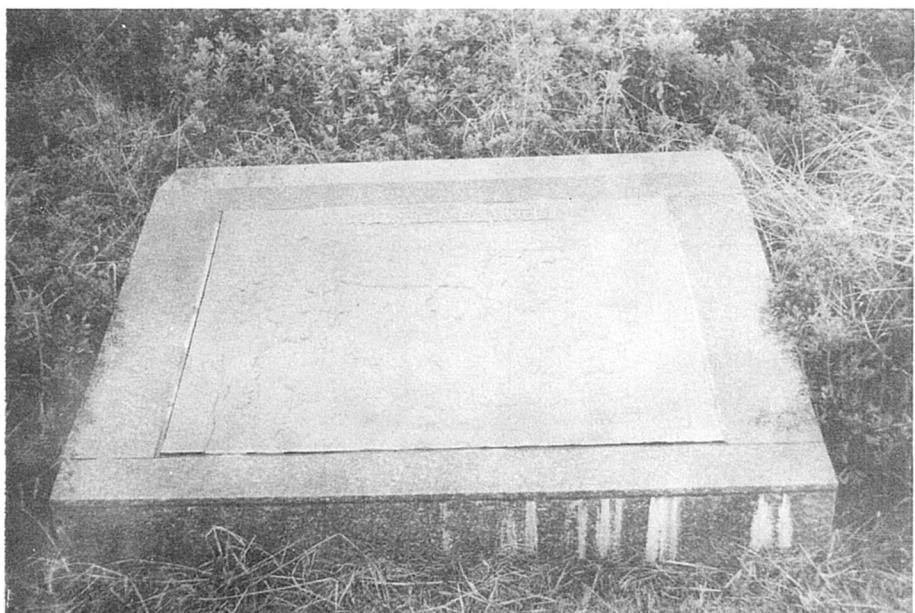
休 憩 所



レリーフ  
と  
植栽



レリーフ



土器形腰掛



土器形腰掛



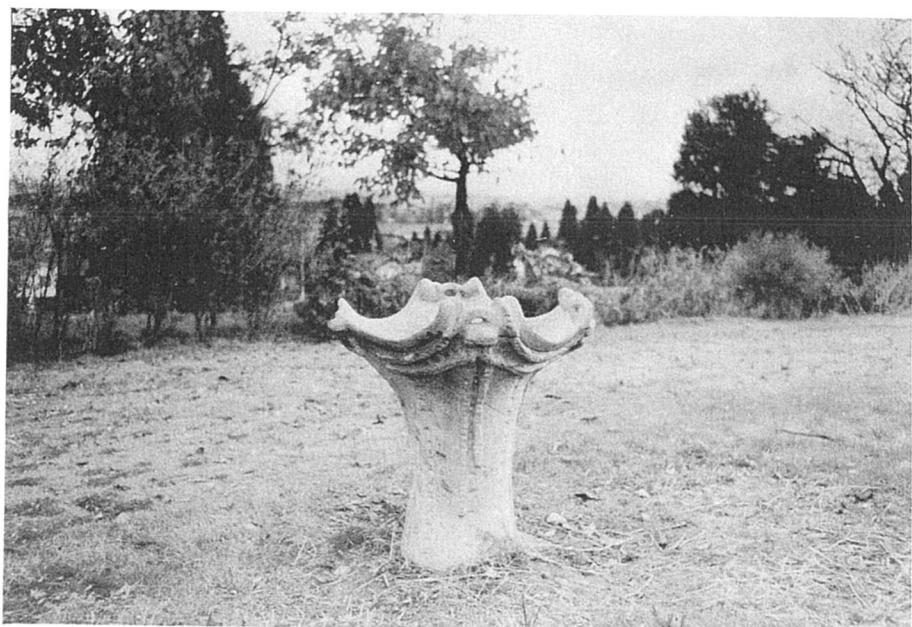
土器形腰掛



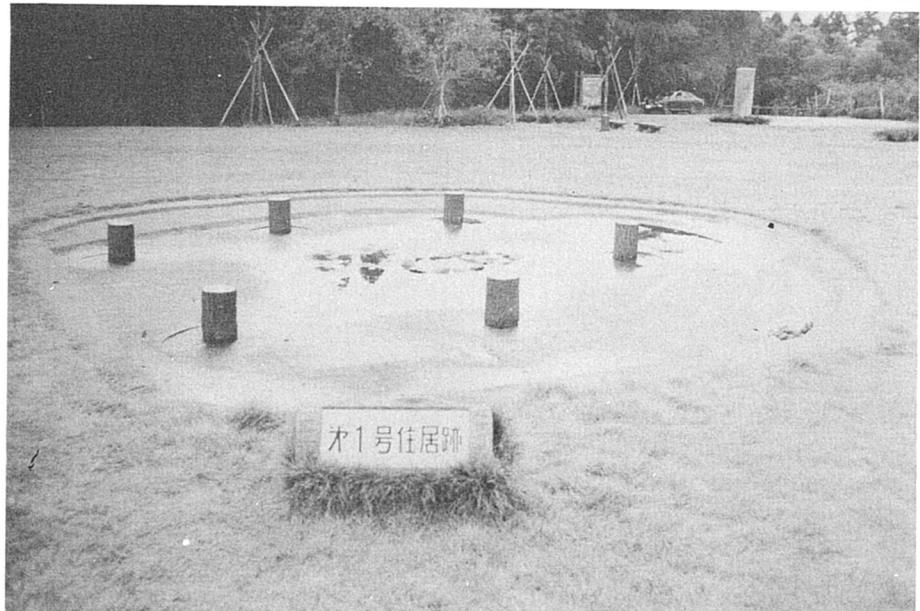
土器形水呑



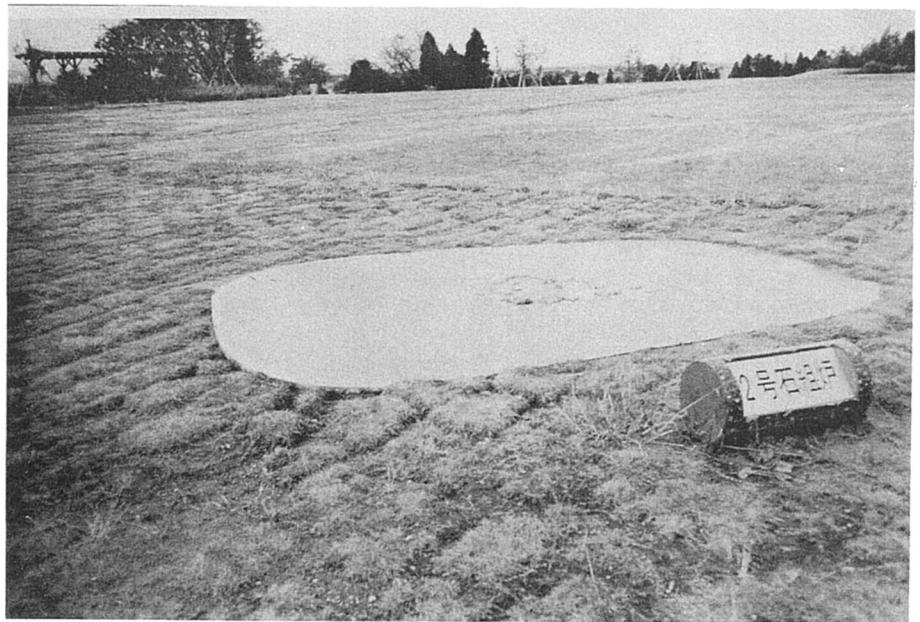
土器形水呑



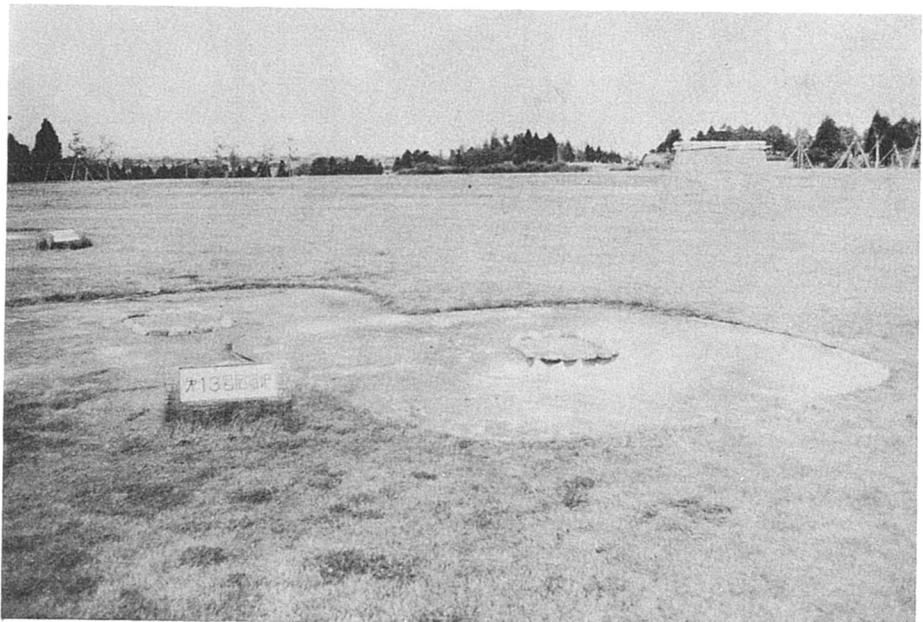
住居跡



石組炉



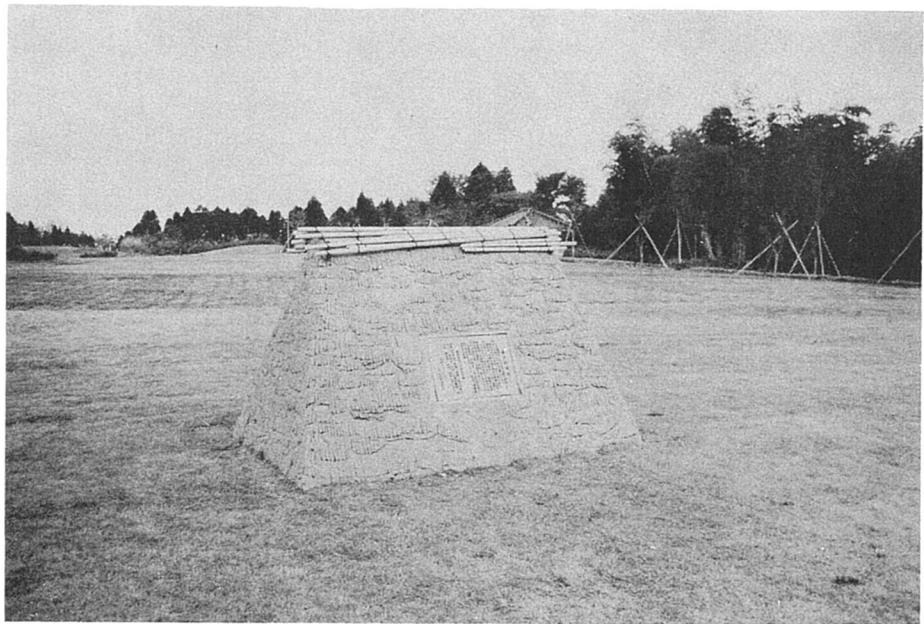
石組炉



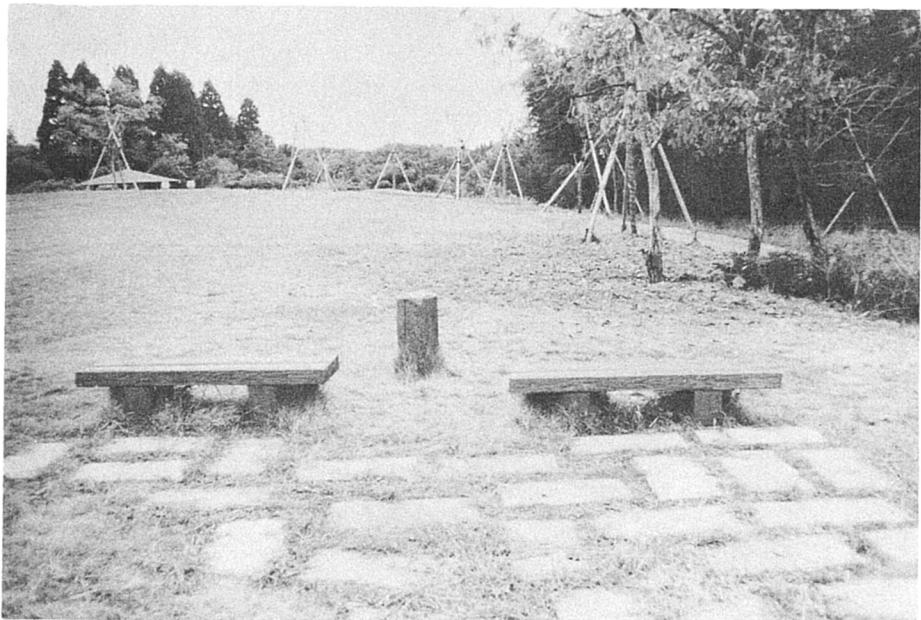
石組炉



説明板



ベンチ



ベンチ



園路並木



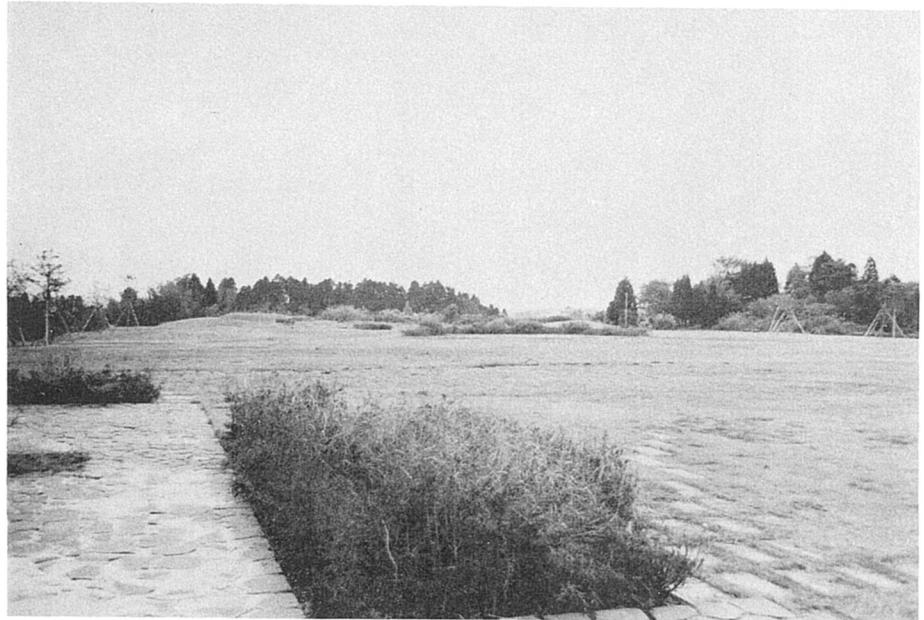
植栽（低木）



同 上



同 上



---

昭和58年3月発行

## 串田新遺跡・整備事業概要

発行 大門町教育委員会

〒939-02 富山県大門町二口1081

印刷 力マダ印刷

---



畠田新遺跡整備事業概要

木門町教育委員会